

小川駅西口新公共施設等の管理運営に係る検討の方向性

市は、小川駅西口地区市街地再開発事業において、「公共床」及び「(仮称)小川にぎわい広場」(以下「広場」という。)を取得することとし、令和元年12月に「小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」(以下「整備基本計画」という。)を策定した。その後、市民参加等を実施したうえで、令和2年10月に「基本設計レイアウト(完成版)」(以下「基本設計」という。)を公表している。

「小川駅西口新公共施設(※)」には、現在の西部市民センターにある機能(図書館、公民館、出張所)と、小平元気村おがわ東にある「市民活動支援センター あすぴあ」(以下「あすぴあ」という。)、 「男女共同参画センター ひらく」(以下「ひらく」という。)の機能を移転し、他に付加価値的な空間も設け、にぎわいの創出等を目指すこととしている。

この「小川駅西口新公共施設」と「広場」の管理運営については、以下の事項を踏まえ、今後、詳細について検討を進めることとする。

※小川駅西口新公共施設：再開発ビル4～5階の公共床に整備する新たな公共施設

1 コンセプト

(1) 整備基本計画や基本設計で示している事項

①多世代の多様な活動が重なり合う

多世代の多様な活動が重なり合い、将来的には統合を目指していくパイロット的な施設と位置づける。それぞれの機能は縦割りに独立したものでなく、一体的な新しい施設となることを目指す。

②回遊や滞在による、にぎわいの創出

新しいタイプの公共施設へのチャレンジとして、例えば、ビジネスパーソンや学生にとっての利便性向上、大学や企業と連携した公共床の活用など、広場や再開発ビルの1階から3階の商業・業務施設、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す。

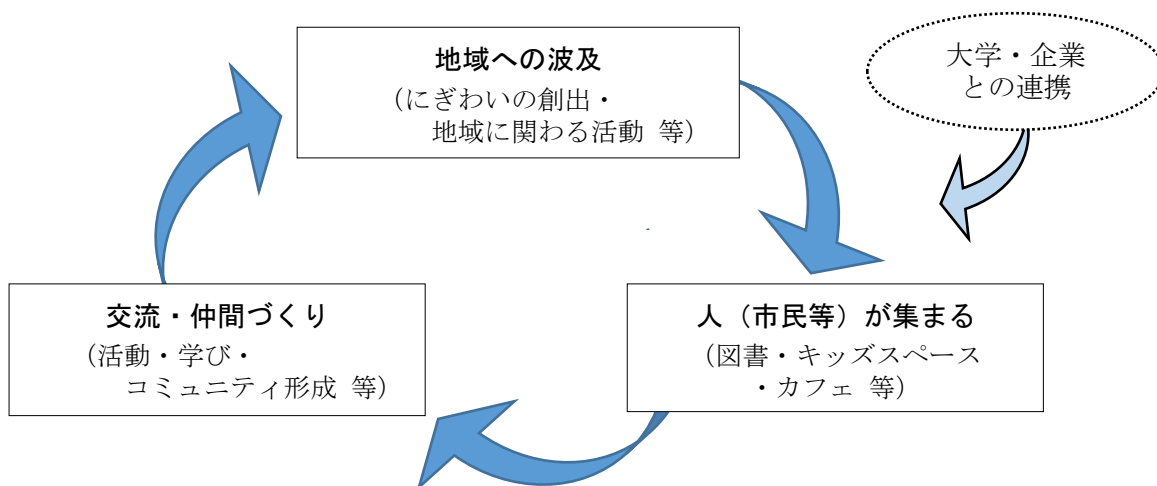
③本と多様な活動が重なり合う創造空間

4階、5階全体のレイアウトコンセプトを「本と多様な活動が重なり合う創造空間」として、施設全体を本に囲まれた居心地の良い空間とし、生涯学習(公民館、図書館)と市民活動や男女共同参画の推進など多様な活動が重なり合い、相乗効果を生み出すことを目指す。

その上で、4階は「利便性の向上と子育て世代の利用促進」、5階は「開放的で多様な活動の共存」をレイアウトコンセプトとしている。

(2) 上記(1)から導かれるイメージ

魅力ある居心地の良い施設に人が集まり、相互の活動が見える化することで交流が生まれ、仲間の輪が広がり、コミュニティの形成等が促進され、さらに、それらのコミュニティ等が地域を視野に入れた活動に取り組むことで、周辺地域への好影響の波及(にぎわいの創出等)につながることを目指す。また、大学や企業と連携することで、取組がより一層効果的なものになることを目指す。



2 施設の機能

(1) 既存機能の移転

小川西町図書館、小川西町公民館、あすぴあ、ひらく、西部出張所の機能を移転する。各機能が縦割りに独立したものではなく、一体的な新しい施設として、多様な活動が相乗効果を生み出す。(個人情報等に配慮し、出張所は区画を別にする。)

(2) 新規の機能(付加価値機能)

カフェ、キッズスペース、個人向け貸出スペース、防音スタジオなどの新規の機能や広場についても、一体的な運営により、他の機能との相乗効果を生み出す。

3 管理運営の考え方

(1) 開館時間、開館日

開館時間や開館日については、現状を踏まえると、「出張所」と「出張所以外の区画(以下「図書館等エリア」という。)」で異なる設定とすることが想定される。

「出張所」は現在の西部出張所と同様とし、「図書館等エリア」は移転(複合化)する既存の各施設の開館日や開館時間を踏まえつつ、機能ごとには分けずに、エリア全体で統一的な開館時間や開館日を設定することも視野に入れ、メリット・デメリットを比較しつつ検討していく。

(2) 管理運営主体（指定管理者制度の導入検討）

本施設において「それぞれの機能は縦割りに独立したものでなく、一体的な新しい施設となることを目指す」ことは重要なコンセプトである。

本施設に複合化する図書館、公民館、あすぴあ、ひらくの各機能は、市においては、所管が複数の部署にまたがるものであるが、独立した団体（法人等）が管理運営を行う指定管理者制度を採用することにより、一体的な管理運営をスムーズに実現することが期待できることから、本施設の管理運営については、広場も含め、なるべく広範囲の業務領域を網羅する形で指定管理者制度を導入する方向で検討を進める。

なお、出張所機能については、公の施設（地方自治法第244条）ではないため、指定管理者制度の導入対象とはならないが、指定管理者と同じ事業者に施設の維持管理を委託することなどは考えられる。

(3) 市民協働・市民参加

これまで、「整備基本計画」や「基本設計」において、市民参加を実施し検討を進めてきた。「小川駅西口新公共施設」が地域に根付いた愛着や親しみのある施設となるためには、事業展開に際しても市民協働や市民参加を実施していくことは重要である。

既存の取組（公民館の「事業企画委員会」や「なかまちテラスLINKS」、図書館におけるボランティア等）も参考に、利用者のニーズを把握しながら、施設活用における市民協働や市民参加のイメージづくり等を進める。また、施設の開設前に、愛称募集等の形で広く市民が参加できる機会を設けることも検討する。